

大阪府交野市小松寺の古代の四度の地震記録

Four earthquakes in the ancient ages recorded in the old documents of Komatsuji temple in Katano city, Osaka prefecture

都司 嘉宣 [1]

Yoshinobu Tsuji[1]

[1] 東大地震研

[1] ERI, Univ. Tokyo

1. 京都東寺・『観智院文書』中の小松寺記録

大阪府交野市星田にあったとされる小松寺に関する『河内国小松寺縁起』という文献がある。この文献は中世・古代の史料として江戸期に塙保己一の『続群書類従』の第801巻に採録された。武者(1941)の『増訂・大日本地震史料・第一巻』には、この文献から採録された永長二年十一月廿日(1098年1月1日)の地震による毘沙門堂の崩壊記事と、康和元年八月廿七日(1099年9月20日)の地震による講堂の破崩記事が載っている。

最近筆者は、大阪府交野市の教育委員会・市史編纂室を訪れ、『続群書類従』に引用される前の文献と考えられる京都・教王護国寺(東寺)の塔頭に保存された『観智院文書』を翻刻した『廃小松寺』(交野市教育委員会, 2008)という冊子の提供を受けた。教王護国寺には、密教関係の多数の貴重な文書が保存されているが、そのなかに長祿四年(1460)に行われた交野の小松寺の塔供養に関する一連の記録が含まれている。この塔供養のさい、導師(主席僧侶)として東寺の観智院住持の宗杲(そうこう)が招かれており、このため東寺の観智院に小松寺に関する記録が残されることとなった。

2. 『観智院文書』に記された小松寺の地震記録

小松寺の変遷に関する文書は、観智院の多数の文書のうち第一一〇箱、一一号の文書であって、文書自体には昔号荒山寺・河州交野小松寺縁起并願文、と書かれている。この文書の本文の記載そのものに従って内容構成を見ておくことにしよう。そこにはこの寺の開創のいきさつにはじまり、逐次増築されていった堂塔の建設、自然災害による破損消滅、修復の記事が克明に記録されている。このなかに四回の地震による建物の被害記事が次のように記録されている。

(1) 天平元年(729)聖武天皇の世、天下に大地震があり、養老七年(723)に再建された草堂は崩れて、谷に流れ落ちた。

(2) 天慶二年(939)八月十九日に秦郷の紀行将によって講堂が建てられた。この講堂は寛和元年中(985)の大地震で崩れてしまった。

(3) 永長二年十一月二十日(ユリウス暦1097年12月26日、グレゴリオ暦1098年1月1日)、天変地震のとき承暦四年(1080)に建てられた毘沙門堂が崩れた。

(4) 承徳三年八月二十七日(ユリウス暦1099年9月14日、グレゴリオ暦20日)変異地震のとき講堂が破れ崩れた(地震D)。

3. 小松寺廃寺の位置

交野市教育委員会・市史編纂室の御教示によると、平安時代に存在した小松寺は現存せず、ただ同市星田の丘陵地区の両川付近に廃小松寺の遺跡があり、現在はゴルフクラブ四条畷のゴルフ場の第9番ホールの位置に当たっている、というその位置は生駒山脈の北端の丘陵の、交野市と四条畷市の境界をなす丘陵の稜線附近で標高約250mの地点である。大阪と奈良を結ぶ阪奈国道(国道163号線)が生駒山脈の北端付近を越える清滝峠の北方約1kmの地点にあった。古代・中世に小松寺のあった場所というのは、決して地盤の軟弱な沖積平野ではなく、むしろ地盤の強固な丘陵地帯の稜線上であった。

小松寺廃寺の3km西側を生駒断層・枚方撓曲が走っており、わずか1km北側を交野断層が通っている。奈良・平安時代に起き小松寺に大きな建物被害を与えた四回の地震のいくつかは、これらの断層の活動によるものではないかと推定される。

平安時代後期に起きた(3)(4)の地震が、嘉保東海地震(1096)と康和南海地震(1099)に極めて近い時期に起きていることに注目すべきであろう。東海地震、南海地震の直前、あるいは直後の時期に、近畿地方の内陸の地震が起きやすくなる時期があることは、すでによく知られた事実であるが(3)(4)の地震もまたこれらの海溝型巨大地震に誘発されて起きた内陸の活断層の活動による地震であったことになろう。

4. 謝辞

本研究をまとめるにあたり、交野市教育委員会市史編纂室、およびゴルフクラブ四条畷の副支配人・下吉正浩氏のお世話になりました。また、東京大学史料編纂所の榎原雅治教授には、中世史料の信憑性について鑑定をお願いしたところ、十分に信頼するにたる文献であるとの御判定をいただいた。記して感謝の意を表します

文献

活断層研究会, 1991, 「新編・日本の活断層」, 東京大学出版会, pp437.

交野市教育委員会(財)交野市文化財事業団, 2008, 『廃小松寺』, pp49.

武者金吉, 1941, 「増訂・大日本地震史料・第一巻」, 文部省震災予防評議会, 文部省震災予防評議会, pp943.